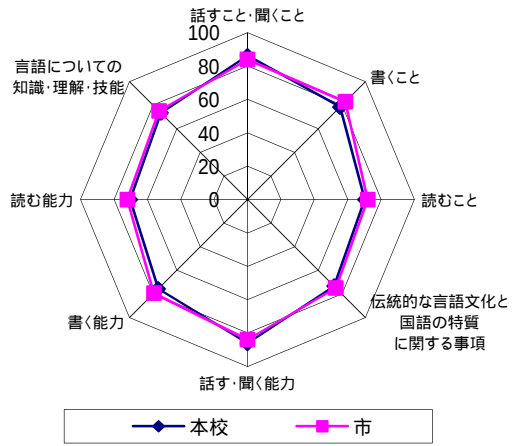


宇都宮市立城山中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	86.1	83.9	83.1
	書くこと	78.4	82.9	68.6
	読むこと	70.3	72.0	67.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	73.4	74.8	68.7
観点別	話す・聞く能力	86.1	83.9	83.1
	書く能力	75.7	79.3	67.0
	読む能力	70.3	72.0	67.8
	言語についての知識・理解・技能	73.4	75.0	68.5

参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



指導の工夫と改善

○ 良好な状況が見られるもの ● 課題が見られるもの

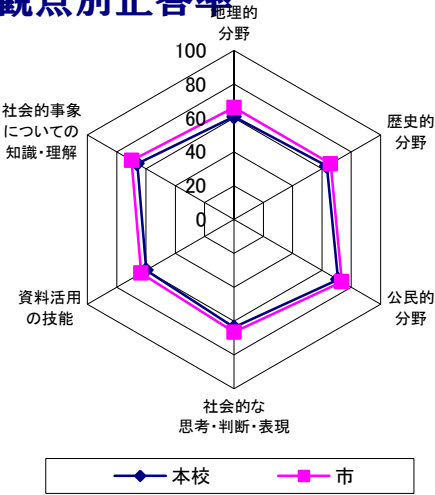
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○ ほとんどの設問において、市の平均を2～5ポイント上回った。特に、「話の内容を正確に聞き取ること」と、「司会者の工夫を聞き取ること」がよくできていた。	・聞き取りについてはよく聞き取ることができる。今後も聞き取りテストを授業の中で実施し、経験をたませしていきたい。
書くこと	● 各設問において、市の平均を下回るものが多かった。特に、設問の条件である「3段落構成で文章を書くことができる」「自分のとった立場の理由を書くことができる」を満たすことができず、5ポイント程度下回った。	・書くことの学習として、「自分の立場を明確にして意見を書く」課題や「段落構成を指定して意見を書く」など、条件を提示して考えをまとめる学習を意識的に取り入れていく。
読むこと	○ 「書き手の論理の展開の仕方を的確に理解することができる」「表現の特徴を捉えることができる」「新聞記事の内容を読み取り、その内容をまとめることができる」は市の平均を2ポイントから4ポイント上回った。 ● 「文章の展開に即して内容をとらえることができる」「登場人物の心情をとらえることができる」「新聞記事の内容を読み取り、内容に合う資料として適切なものを選ぶことができる」は市の平均を2～6ポイント下回った。	・文学的文章の読解の学習においては、登場人物の心情の読み取りは、表現されていることをもとに読み取りの根拠を明確にしてまとめさせる。 ・説明的文章の読解においては、適切な資料を選んで内容をまとめる練習を計画的に行わせる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○ 漢字の読みでは「伴う」書き取りでは「俳優」が市の平均を上回り、助動詞の理解と敬語の理解も市の平均を5～6ポイント上回った。 ● 漢字の読みで「湾曲」書き取りで「易しい」が市の平均を下回り、「思ふやう」の歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すこと直せない生徒が多かった。	・漢字の読み書きは、授業の初めに小テストを行っていく。(年間32回の予定) ・古文の学習において、歴史的仮名遣いの特徴や法則を理解させ、繰り返し学習させていく。

宇都宮市立城山中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	60.7	66.2	58.0
	歴史的分野	63.3	65.8	60.8
	公民的分野	70.9	73.5	69.2
観点別	社会的な思考・判断・表現	63.7	66.6	58.6
	資料活用技能	59.9	63.4	55.9
	社会的事象についての知識・理解	66.0	69.8	64.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

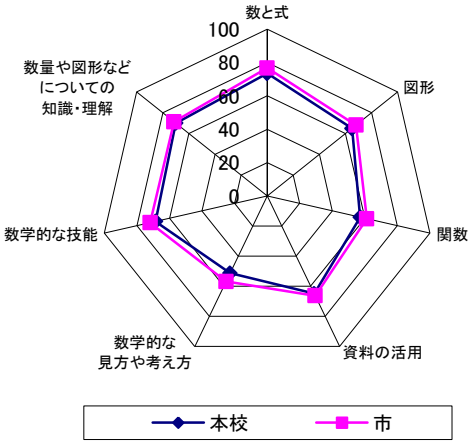
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	●ほとんどの設問において市平均を下回っている。特に北アメリカの断面図の読み取る問題で、市平均を16ポイント下回っている。また、ヒスパニックに関する知識を問う問題の正答率も低くなっている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・デジタル教科書等を活用し、視覚的に分かりやすい授業に努める。 ・1年生で学習した内容を忘れてしまっているので、復習の機会を多く持つ。
歴史的分野	○中世の都市や農村における自治のしくみを資料から読み取る設問では、市平均を8ポイント上回っている。また、江戸時代に関する問題は比較的正答率が高い。 ●各設問での平均正答率は市を下回るものが多く、複数のグラフを読み取る問題の正答率が34ポイントと低くなっている。	・複数の資料を活用して調べたり、考えたりする場面に授業に取り入れ、資料活用の技能を身に付けさせる。 ・図書室の資料なども活用し、歴史に関する興味・関心が高まる工夫を行なう。
公民的分野	○各設問での平均正答率はほぼ市と同等になっている。 ●憲法改正の手続きについての設問で、12ポイント市平均を下回っている。授業で丁寧に取り扱い、定期テスト等のも出題するなどしたが、定着が図れていない。	・新聞などを活用し、現代社会に起こっている問題などに関連付けながら学習させるようにする。単に覚えさせるのではなく、学ぶ意義なども考えさせながら授業を進めるようにしていく。

宇都宮市立城山中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	73.5	76.7	72.6
	図形	65.0	68.1	63.8
	関数	57.2	61.2	54.4
	資料の活用	65.0	66.3	55.4
観点別	数学的な見方や考え方	51.3	56.8	50.8
	数学的な技能	68.5	71.9	66.7
	数量や図形などについての知識・理解	70.0	71.4	63.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○多項式と単項式の計算や乗法公式を使っ ての式の展開の計算は8割～9割前後の正答率 である。 ●方程式を解く問題については6割程度にとど まっており、苦手になっている生徒が多い。 ●平方根の分母の有理化をする問題では5割程 度の正答率で、苦手になっている生徒が多い。	・「数と式」の領域は、数学全般を学習する上で必要不 可欠な部分である。ドリルなどを実施して、しっかりと身 に付けさせる必要がある。複雑な式の計算を苦手として いる生徒が多いので、基礎・基本を押さえ、やや複雑な 計算の問題を小テスト形式で行い解答・解説を実施す る。
図形	○平面図形、空間図形において、投影図から立 体の形を判断したり、多角形の内角の和を求め る問題については、8割以上の正答率であり、市 の平均を上回っている。 ●図形の性質と証明では、証明の内容を正しく読 み取り証明を完成させる問題の正答率が55%と なっており、苦手になっている生徒が多い。	・初めは簡単な図形の証明の問題を解くことにより、証 明の手順を身に付けさせる。その時、何が仮定で何を求 める問題なのかをしっかりと確認させたい。その後、や や複雑な問題を解かせて、使える条件を十分に利用す ることの大切さを指導する。また、プリント学習の時間を 導入する。
関数	○関数を式で表す問題については、市の平均 と同程度であった。 ●xの2乗に比例する関数で、グラフ上の点を求 めたり、問題の条件に合う点の座標を求めたりす る問題では、正答率が5割以下となっており、苦 手としている生徒が多い。	・グラフを使って、様々な関数の問題演習を行う。その時 いろいろな解き方を考えださせたい。また、他の領域と の関わりがあるので、わからない時はその都度確認させ たい。
資料の活用	○資料の活用の問題では、度数分布表につい ての理解や相対度数を求める問題については、市 の平均を上回っている。また、確率を求める問題 では、市の平均とほぼ同程度であった。 ●ヒストグラムの階級の幅を求めたり、比較し たりする問題については、市の平均を1割程度下 回っている。	・度数分布表とヒストグラムの関連について、しっかりと定 着できるよう確認しながら、授業を進めたい。 日常生活の中で確率の考え方が利用されていることに 気付かせ、身近なものとしてとらえさせたい。 ・やや複雑な確率の問題にも挑戦させたい。その際、正 しく場合分けができるようにする。

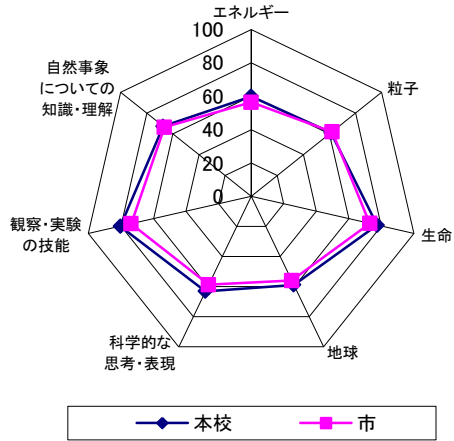
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

宇都宮市立城山中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	59.9	56.4	49.9
	粒子	61.2	62.0	57.4
	生命	77.4	72.9	67.1
	地球	58.9	56.0	48.5
観点別	科学的な思考・表現	63.1	58.8	52.1
	観察・実験の技能	80.4	73.8	67.6
	自然現象についての知識・理解	67.5	66.5	61.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

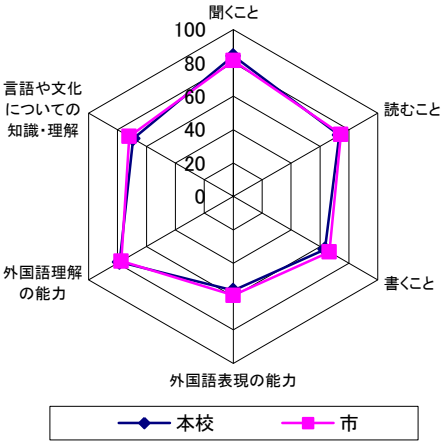
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○市の平均値を3.6ポイント上回っている。授業で実験を通して丁寧に学習してきた成果が表れていると考えられる。特に、力学的エネルギーの移り変わり、力学的エネルギーの保存についての正答率が高かった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・家庭の電気器具の使い方など、実生活に直接関わるような問題について、授業での学習内容が十分に活用されなかった結果が出ている。普段の授業から、学習内容と身のまわりの現象との関連を重視した指導を行いたい。
粒子	●0.8ポイントとわずかながら市の平均値を下回っている。原子・分子の理解がまだ不十分な上に、電気的な性質をあわせて考えなくてはならないイオンについて理解が深まらなかったと考えられる。	・目に見えないミクロの視点から考えなくてはならない粒子についての学習では、生徒の理解を助けられるようなモデルを効果的に用いて指導していきたい。原子と分子の違い、原子の中の構造について丁寧に学習させたい。
生命	○市の平均値を4.5ポイント上回っている。本校の生徒は植物・動物についての学習に興味関心が高く、観察・実験に意欲的に取り組んできた成果が表れていると考えられる。特に、光合成、生殖についての正答率が高かった。	・植物・動物のからだのつくりやはたらきについて、なぜそうになっているのか、どういう利点があるのかなど、学習をより深化させるような考察を多く取り入れた授業を展開していきたい。
地球	○市の平均値を2.9ポイント上回っている。火成岩の特徴と種類、前線の通過にともなう天気の変化についての正答率が高かった。	・事物の特徴や種類をただ覚えたりすることにとどまらずに、なぜそういうつくりになるのか、なぜそう動くのか、この後どう変化していくことが予想されるのかなど、科学的な根拠に基づいた推測の能力を高められるような授業を展開していきたい。

宇都宮市立城山中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	84.2	81.4	76.1
	読むこと	73.4	74.4	71.2
	書くこと	63.4	66.5	60.7
観点別	外国語表現の能力	56.4	59.3	51.7
	外国語理解の能力	78.6	77.5	72.8
	言語や文化についての知識・理解	69.3	72.0	69.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○全ての問題において、市の平均を上回っていた。 ●対話を聞いて適切に応答する問題(許可)や資料をもとに英語で答える問題の正答率が低い。	・授業において、教師の英語はもちろんデジタルテキストやリスニング等たくさんの英語を聞かせる。 ・資料をもとに答える問題の練習をする。
読むこと	○スピーチの内容や要点を把握する問題の正答率は市の平均を上回っていた。 ●現在完了形(知識・理解)の問題の正答率が7割を超えなかった。長文の概要は理解できるが、それに関する質問が応用的になると答えられない生徒が多い。	・現在完了形の復習を行い、知識・理解の定着を図る。 ・教科書の内容理解において、様々な質問形式で内容確認をし、応用力を身に付けさせる。
書くこと	○3文以上の英作文はテーマに沿った理由を考えながら書く努力が見られた。 ●市の平均より3.1ポイント低い。特に、moreを使った比較級の文、動名詞や不定詞の正答率が低い。	・比較や動名詞・不定詞など1・2年の既習事項の復習をする。 ・定期的な単語テストを行い、単語力の向上を目指す。 ・3文以上の英作文練習を定期的の実施し、表現力の向上を目指す。